

平成青木時報

2013年(平成25年)8月1日 第2号 発行:平成青木時報編集部

さんしろう 三四六、一日記者に!

SBCテレビで放送中の、信州応援バラエティー番組「ナウマンゾウのメガホン」の企画で、長野県や首都圏のラジオやテレビで活躍中の、マルチタレント三四六さんが、平成青木時報を応援するために、記者となり村内を取材してくださいました。

7月17日、パラグライダーの飛行体験、青木村役場、沓掛温泉などを訪れ、村内の人に取材を敢行。どこに行っても大人気で、サインや写真、握手を求められていました。

7月20日には、くつろぎの湯大広間にてイベントを行いました。有線放送で参加を呼びかけ、三四六さんが取材して書いた記事を発表。多くの皆様にご参加いただき、大変盛り上がりました。ご協力、ありがとうございます。

放送は7月31日水曜日、夜8時からです。楽しみです。三四六さんが寄稿してくださった記事を、下記に掲載します。

パラグライダーで飛ぶ三四六さん



集合写真 7/20 くつろぎの湯にて



三四六、青木村を遊ぶ

熱帯夜の東京で眠れない日々を送っていた三四六が、照り返すコンクリートからの灼熱を逃れるため、青木村を訪れました。

歩きながら散策すればいいのだが過密スケジュールの中で一瞬の息抜きだ、時間がない!というところで飛びましたよ、三四六。パラグライダーの上空は360度。パノラマで、村民4600人の生活が平和そうに息づいていました。とてつもなくのどかで美しい青木村でした。

冷や汗をかいた三四六が立ち寄ったのは沓掛温泉、小倉乃湯。湯船に入った瞬間「ぬるっ!」これには感激!時間がないと言いながら浸かってしまった三四六でした。

『お腹が空いたな』ってつぶやくと、待つてましたとばかりに、記者スタッフが山奥へ案内してくれました。どこまで行くのか不安になったその時、突如として現れた山小屋、「農家レストラン 夢楽家(むらほうす)」!

冷たいお水は100年前に降った雨が地下70mから湧き出たものとのこと。十割そば・九割そばが絶品です。ご主人が裏まで行こう!って誘うのでついて行くと、手作りのピザ焼き釜が!自分でピザを創作して釜で焼かせてくれるんです!誰が作ったものよりも、かわいくて美味く感じますよね、これは!

ちよっぴり遊ばせてもらうつもりで来た青木村。のびのびできるリアルな自然があります。都会のうんざりする暑さから抜け出したい仲間がいたら、「おい!子どもを連れて青木村に行ってみな」ってオススメしようと思えます。きっと最高の「夏休みの宿題」が完成するんだらうな。

(三四六)

青木時報を学ぶ

大正 11 年 1 月 1 日 第 3 号 から 抜粋

教育するということとは良い人間を作ることであり、人生の活動を正しくするために、身体面、知識面、道徳面、色々と必要な準備をすることである。

戦争は腕力ではなく、科学や機械の頭の戦争である。教育の発展により、人間の精神面を訓練すれば、戦争の原因までもなくすことができる。

教育の力は偉大である。今学校にいる子どもたちは、この村を担っていく。村の盛衰だけでなく、国家の興亡にも影響がある。



村松の風穴を訪ねる

6 月 2 日信州昆虫資料館の主催で、村松の風穴について講義を受け、現地を案内して頂いた。長野は蚕の餌になる桑の栽培に適しており、養蚕業にかけては全国屈指の先進県だった。

場所は、子檀嶺岳の登山道近くの標高 900 m 付近。風穴は岩石が洞窟状になり、その間から冷気が噴出してきて、天然の冷蔵庫となる。それを利用して蚕種（卵）を貯蔵抑制した。階段を下りた最下層では温度計が 2 度を示して肌寒さを感じた。蚕種冷蔵・青木風穴株式会社が発立され、大正時代から昭和 14 年まで利用されていた。当時の資料から、施設の規模は間口が 8.1 m、奥行き 17.1 m、深さ 4.5 m という記録が残っている。

風穴が必要ではなくなった今日だが、先人の知恵と自然の力の偉大がしみじみと伝わった。身近なところから過去を知るためにも、こういった文化財を風化させない機会をつくり、未来に残していきたいものだと感じた。(U)



立派な石垣 (上)

熱心に見学する参加者の皆さん (右)

SBCテレビ 信州応援バラエティー

「ナウマンソウのメガホン」

7月31日(水)、8月28日(水)より8時!



放送日/毎月一回水曜日より8時~9時 放送!

出演者/三四六 オトメ☆コーポレーション 中澤佳子 官琳



Yoshitomo



株式会社よしもと

〒386-1602 小県郡青木村村松 1002

TEL/FAX0268-71-0226

<http://e-yoshitomo.com/>

道の駅あおき・インターネットで販売中!

「気になる。」 case1 春海亭(はるみてい)

ちょっと気になる場所取材する企画。道の駅正面にある和食料理屋、「春海亭」に潜入した。

爽やかイケメン店長登場。樋口豊さん 26 歳。

「オススメは海鮮丼(1,000 円)とラーメン(700 円)です。築地直送で仕入れるんですよ」

ここ青木で、美味しく新鮮な魚がいただけるのは嬉しい。定番、季節メニュー、丼物と幅広く扱っており、昼は定食屋、夜は飲み屋として人気が高い。地元で愛されるお店を目指しており、気軽に来店できるようにと、少人数でも車での無料送迎を行っている。個室があるので子ども連れのお客様も多いそうだ。

今年の夏のおすすめは、冷やしラーメン(700 円)だとか。冷たいスープにピリッと辛味。最後にデザートもいただいた。

「ぜひ送迎も活用してください。ご来店お待ちしております」

春海亭は村民のための飲み屋を目指す心意「気」のあるお店だった。(甲斐)



パラグライダー

で空をかける

きしまさひろ
岸正弘さん (43)

青木人

Vol. 2

～活力ある青木村民をたずね歩く～



東京都出身。空を飛びたいという思いから、菅平高原でパラグライダーを始めてインストラクターになる。独立を考え、信州の山を登っているうちに、十観山へ吹き上げる風がパラグライダーに適していることを発見。前例がなく、理解を得ることに苦労はあったが、地区の方に安全面などを説明し、協力を得て 2001 年に開業した。

主な事業はライセンススクール、会員のクラブ、体験コースの 3 本立て。人気の体験コースでは年間 500～600 人がフライトをしている。飛ぶ標高が 2000m を超えることもあるそうだ。また、ヨーロッパへのツアーなどの遠征も行っている。今後は、お子さんの体験フライトも検討中とのこと。

オープンして 12 年。困難を乗り越え、空からの青木村を伝え、パラグライダーの魅力を伝え続けた結果、現在では県内外から多くの方が訪れている。岸さんの気さくな人柄によるものでもあった。(山浦)

1 人でチャレンジコース・2 人乗り体験コースなど、お日にちが決まりましたら、ご予約ください。詳しくはお気軽にお問合せください。

Paraglider Park Aoki **パラグライダーパーク青木**

〒386-1601
長野県小県郡青木村田沢293-5
岸 正弘
TEL : 0268-49-3887
pep-aoki@ued.janis.or.jp



お祝い事・法事・大小ご宴会承ります。
無料送迎いたします。

このカード提示で
食事代10%OFF
(お酒も含む)

美味しい物処 春海亭

〒386-1602
長野県小県郡青木村村松56-1
TEL・FAX 0268 (49) 0505

営業時間 11:00～14:00 17:00～23:00 (LO 22:30)

定休日 : 火曜日

イベント情報

■ 昆虫館周辺の虫観察・夜間昆虫観察と夏の星観察会
 日時… 8月10日(土) 昼の部15時〜 夜の部20時〜
 場所… 信州昆虫資料館(青木村大字田沢1876-6)
 参加費… 300円(昼から参加の方は夜は無料) 中学生以下無料
 備考… 昼から夜の部まで参加の方は、夕食をご持参ください。
 問い合わせ… 信州昆虫資料館 0268(37)3988

「どろんこ運動会」

日時… 8月18日(日) 13時半から
 場所… 奈良本牧寄バス停横 参加費… 500円
 問い合わせ… 堀内 0268(49)3337

今年は何かが違う?夏の暑いとき、泥と水にふれ、おも
 いつきり楽しもう!しっぽとりや、だるまさんが転んだ、
 などなどの競技も計画中。無心になってまずは遊ぶ!?!い
 つ泥だらけになるの?・今でしょ!!



しっぽとりの様子



集合写真

編集部からのお知らせ

■ お詫びと訂正

前号2面で、画像の説明が大正15年と明記していましたが、正しくは大正10年です。お詫びいたします。

■ 編集部員大募集

青木村の魅力について語りたい、老若男女問わず紹介したい人がいるなど、経験問わず、活動に参加してみたいという方を募集中です。我こそはと思う方、編集部に連絡をお待ちしております。また、激励のメールを送ってください皆様、ありがとうございます。

■ 「青木若者会議」のお知らせ

9月15日10時から、青木村文化会館にて、グレート☆無茶氏の闘魂トークライブを開催します。無茶氏はプロレスで信州を元気にしたいという想いで活躍され、どのよう
 に夢を実現しているのかを、語っていただきます。入場無料・ご予約不要ですので、お気軽にご観戦ください。

第1マッチ 闘魂トークライブ

グレート☆無茶氏(信州プロレスリング代表)

第2マッチ ワークショップ

第3マッチ 交流会

詳しくは次号でお知らせします。



平成青木時報は、
 青年グループ「泥
 百笑(どろひやく
 しょう)」が、平成
 25年度長野県地
 域発元気づくり支
 援金を活用させて
 いただき、制作し
 ております。

収録の際は、三四六さん、クルーのみなさん、北村村長、役場・くつろぎの湯・小倉の湯の皆さん、岸さん、夢楽家さん、集まっていた皆様他、大変お世話になりました。ありがとうございました。平成青木時報編集部 代表 山浦和徳

電話 090-2308-8270

メール aokijiho@gmail.com

ホームページ http://doro100sho.jimdo.com/

Facebook https://www.facebook.com/aokijiho

Twitter @aokijiho

題字 三四六

信濃毎日新聞 日刊スポーツ
 朝日新聞 スポーツニッポン
 毎日新聞 日刊工業新聞
 日本経済新聞 週刊上田

新聞のご用命は...

東郷堂

青木村の新聞配達は私達が担当しています。

小宮山克子 TEL: 49-2180

増田 久義 TEL: 49-2880

林 真理 TEL: 49-2726

